

一般講演・ポスター発表 P-01

播州地域古瀬池における淡水カメの生息状況

大場理幹・弘津航太郎・浅野晃平・三木快修・桑原大周・平井猛寛・森本恭世 (白陵高等学校)

The records of Freshwater turtles in Kose pond, Takasago city, Hyogo prefecture

Satoki OHBA, kotaro HIROTSU, Kohei ASANO, Kaisyu MIKI, Hirotaka KUWAHARA, Takehiro HIRAI and Kyousei MORIMOTO (*Hakuryo High School*)

はじめに

白陵高等学校の横の高砂市阿弥陀長阿弥陀の古瀬池(南北52m×東西93m)にて、淡水ガメの生息調査を行った。調査は2013年5月30日～7月31日の間に、合計33回行った。カメは、専用の捕獲網(通称:カメ網)に誘引用の餌としてコイのブツ切りを入れ、池内の3か所に設置し、捕獲した。網は夕方仕掛けて、翌日の17時に回収した。捕獲したカメは種を同定し、外部形態により性を判別した。ノギスにより背甲長等を0.1mmまで計測した。クサガメは、縁甲部に穴を開け、個体識別し元の場所へ放流した。アカミミガメは、神戸市立須磨海浜水族園の亀楽園に引き取っていただいた。

結果

33回の調査で、述べ59個体捕獲した。識別した個体数は、55匹で、クサガメ4匹は1回ずつ再捕獲されており、放流していないアカミミガメの再捕獲はない。種の内訳は、クサガメ44匹(80%)、アカミミガメ11匹(20%)でクサガメが優勢した。クサガメ44匹の内、雌雄が判別できたのは43匹で、雄30匹(70%)、雌13匹(30%)で雄に偏った。アカミミガメ11匹の内、雄は2匹(18%)、雌は9匹(82%)で雌に偏った。捕獲日を横軸に、縦軸に背甲長をとった図を種ごとに示した(図1)。クサガメは、大きなサイズから小さなサイズまで捕獲されたのに対して、アカミミガメは大きなサイズの個体のみ捕獲された。捕獲したアカミミガメ11匹の内、3匹を解剖したところ、大量の植物と甲虫の羽が数枚、モツゴのものとされる淡水魚のウロコが確認できた。

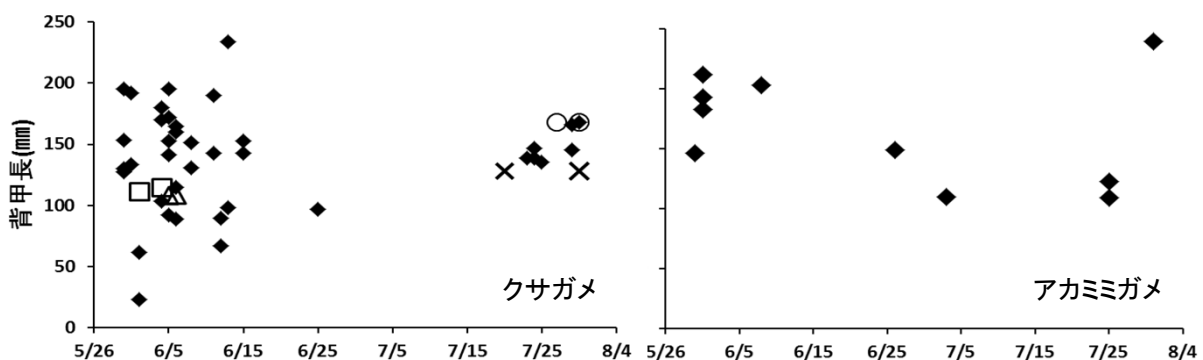


図1. 調査日ごとに捕獲されたカメの背甲長 ◆は捕獲されたカメ、その他のポイントは再捕獲された個体

考察

古瀬池は、予想以上にアカミミガメが少なく、クサガメが優勢した。古瀬池にはドブ貝、ゲンゴロウブナ、コイ、タモロコ、ヨシノボリ、アメリカザリガニ、モクズガニなどが生息しており、クサガメの主食と思しき肉食性の餌が多いように感じる。クサガメがさまざまなサイズの個体が捕獲されたのは、餌が豊富で、本種が古瀬池に定着しているためだと考えられた。一方、アカミミガメは捕獲される個体数も少なく、小さな個体も捕獲

考察

古瀬池は、予想以上にアカミミガメが少なく、クサガメが優占した。古瀬池にはドブ貝、ゲンゴロウブナ、コイ、タモロコ、ヨシノボリ、アメリカザリガニ、モクズガニなどが生息しており、クサガメの主食と思しき肉食性の餌が多いように感じる。クサガメがさまざまなサイズの個体が捕獲されたのは、餌が豊富で、本種が古瀬池に定着しているためだと考えられた。一方、アカミミガメは捕獲される個体数も少なく、小さな個体も捕獲されなかった。また、アカミミガメの解剖による食性調査では、植物を好むことがわかった。古瀬池には水生植物が生えておらず、餌が少ないため、捕獲されるアカミミガメも少ないと考えられた。また、古瀬池の周辺には田畑が広がり、水路で河川や他のため池と繋がっている。クサガメの捕獲個体数に対して再捕獲個体数が少なかったことから、本種は古瀬池だけでなく周辺の広い地域を生活環境としていると考えられた。アカミミガメは防除しているため、移動範囲は不明だが、古瀬池以外の周辺の池などには水生植物が繁茂する場所もあるため、アカミミガメもクサガメ同様に広い地域を生活環境としていると考えられた。今後は、カメの活動範囲、繁殖の有無、食性や性比の偏り等々を明らかにするために、調査を続けていきたい。

謝辞

本調査を行うにあたり、豆崎自治体にご協力いただきました。また、神戸市立須磨海浜水族園の亀崎直樹氏、谷口真理氏、三根佳奈子氏には調査の方法等についてご教示いただきました。感謝申し上げます。